

# 【耕畜連携】（滋賀県下 水田の高収益利用としての子実用とうもろこし生産）

【滋賀県子実コーン組合】

- 令和3年度、2戸の耕種農家が水田活用の観点から1.1haの面積で子実用とうもろこしの試験栽培をしたことがきっかけ。
- 令和4年4月には県下8名の農業者で構成する滋賀県子実コーン組合を設立。近畿で初となる組織的な子実トウモロコシ生産が開始された。
- 生産技術向上のため技術顧問を迎えとともに、日本メイズ生産者協会（JMFA）に加盟。機械メーカーや生産者、近隣地域の関係者との現地研修会等を開催するなど積極的に活動を展開。
- 他作物との組み合わせによる作業時期の分散、収益の安定化、地力アップ等、各組合員による子実用とうもろこし生産の目的は様々であるものの、水田を有効活用するという共通の目的に向けてさらなる面積拡大や単収増に取り組む。
- 令和5年には販売会社を設立し、畜産農家との直接取引などをおこなっており、取組面積と技術向上による単収の増加により、構成員でもある養鶏農家の年間需要を充足できる生産規模への拡大を目指す。

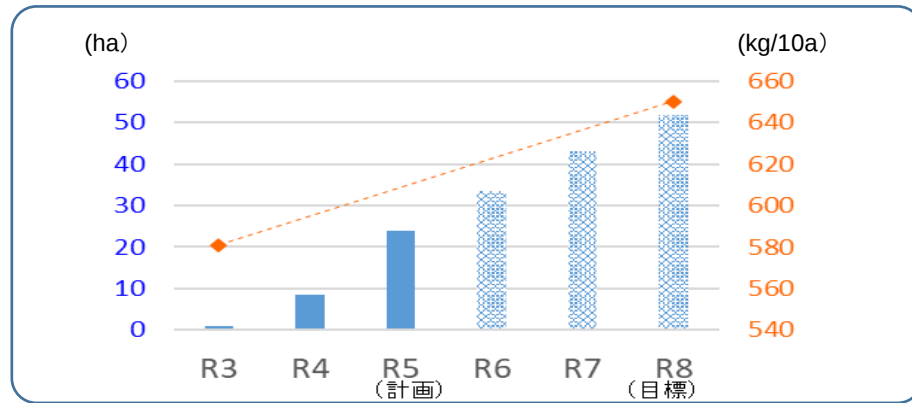


図1. 取組面積・単収の推移

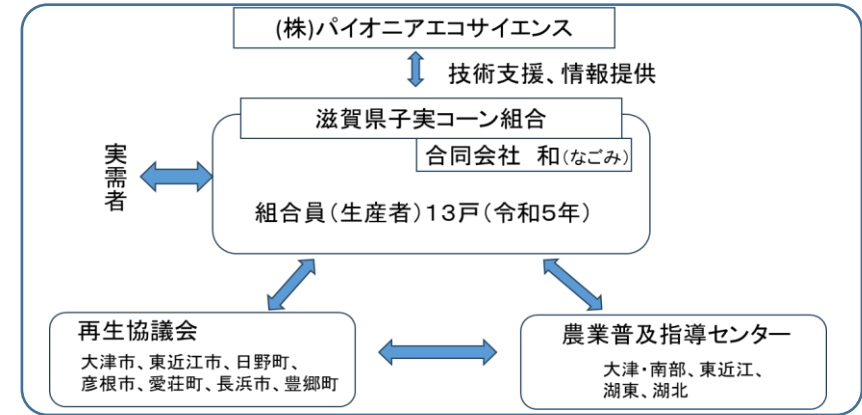
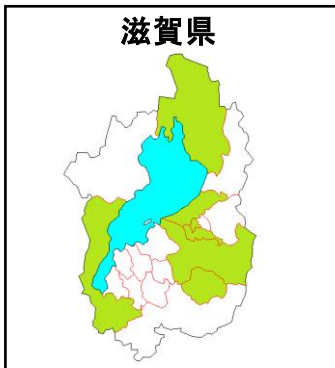


図2. 地域間連携の取組概要



【写真：収穫時期の子実用とうもろこしほ場、収穫機械】